

マレーシアに来て20週目、ホームステイ先の友人達にガイドしてもらい、東南アジアー高いキナバル山のあるクンダサンという町に一泊二日の小旅行をしてきた。

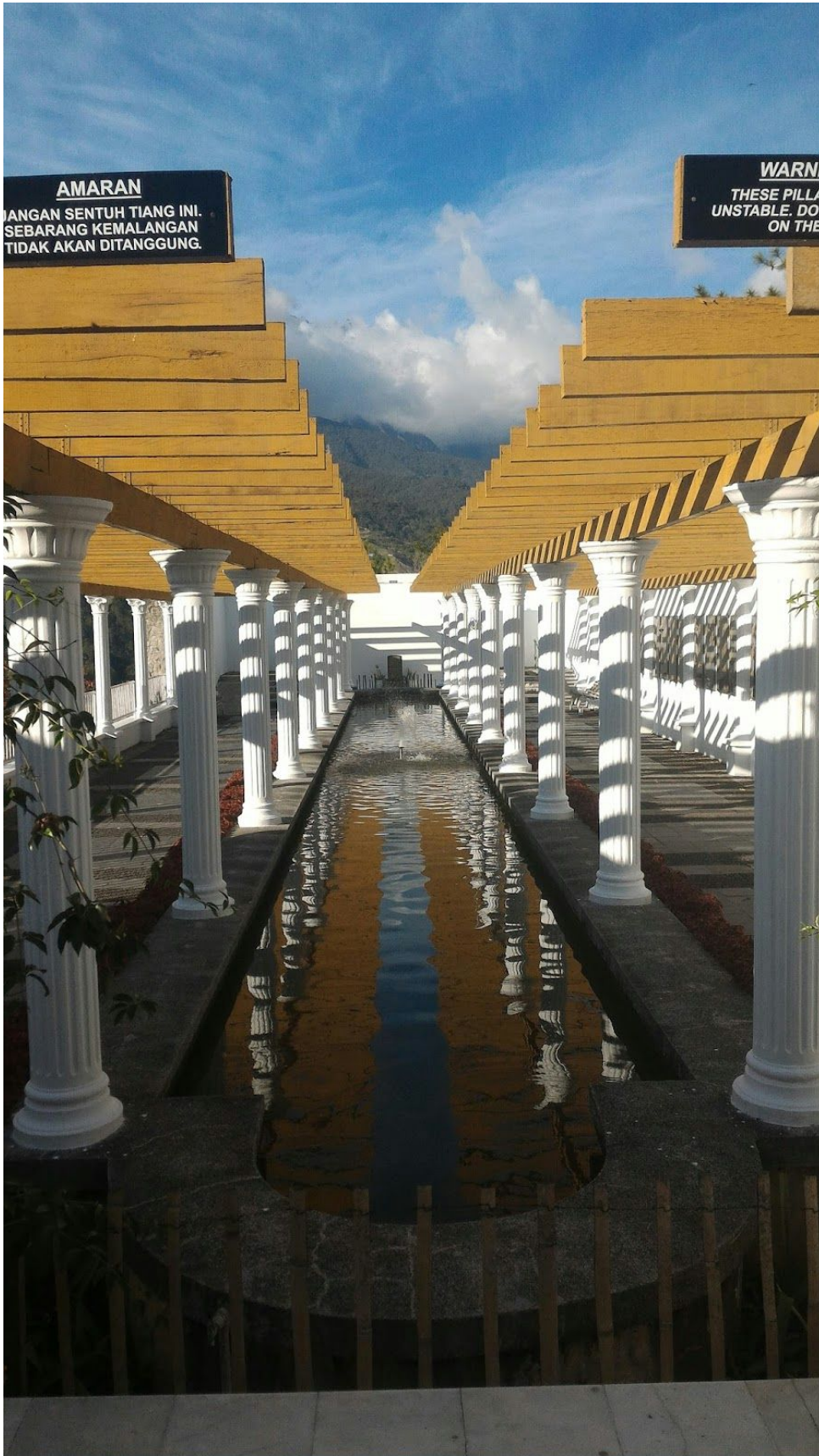
クンダサンには滞在先のコタキナバル市から車で約2時間ほどかけて到着した。クンダサンは世界遺産として登録されているキナバル自然公園を始めとした自然が知られており、日本からも毎年多くの観光客が訪れている。地元民には避暑地として知られており、観光客向けの多くのロッジやホテルがそこかしこに並んでいた。ここの住民は山の斜面を利用して耕作をしており、特産品であるサバ茶やマッシュルームの他に朝に収穫したばかりの新鮮な野菜を町の露店で販売していた。この町は山岳地域にあるため標高が高く、気温が15～20度前後と非常に快適だった。

ロッジへの道中「日本から来たのなら見てほしい場所がある。」と言われ、クンダサン戦争記念碑を訪れた。ここには第二次世界大戦中、日本軍からの虐待により亡くなった捕虜たちの慰霊碑が建ててある。同施設内にあった掲示によれば、1945年、日本軍が連れて来たオーストラリア人捕虜と英国人捕虜2500人がサンダカンからラナウまで山中260kmの行軍を強いられたという。歩けなくなった者は殺されるかその場に捨て置かれたその行軍はデスマーチと呼ばれ、脱走に成功した6名を除き全員が死亡したという。また他にも当時クンダサンを支配していた日本の憲兵隊からの暴力に対抗するために現地市民が結成した自衛団が旧日本軍へのテロリストであるとされ、その構成員の全て約180人を処刑されたそうだ。そしてこれらの出来事に対して未だ日本政府は公的な謝罪をしていないという。私はここに来るまでこの事実を知らなかった。

今でこそマレーシアはマハディール元首相の政策や、アニメや漫画を初めとするサブカルチャーの人気により国民の日本人に好印象を持っている若者も多いが、この記念碑を訪れたことで年配の方や被害者となった家族を中心に、国民が未だ癒えない痛み、恨みを心に抱いているという事を知ることになった。

第二次世界大戦時に旧日本軍が行ったアジア諸国への侵略、虐殺による被害者への日本政府による十分な謝罪は未だなされていないという。正直なところ、自分はこれらの問題に対してどう謝罪すべきなのか明確な答えを出せずにいるが、結局これらの問題は相手への無関心から来るのだろうの思う。留学している自分でさえ、漸く今日知ることになったのだから。私たちがすべき事は、まず相手を知ろうとすること。そして相手の立場からも物事を考えること。公正な目を持つことなのだろう。小倉





写真上はキナバル山、写真中はクダサン戦争記念碑の石碑。写真下は慰霊碑。